クラシック音楽の
正しい鑑賞法
■12■

約束事知ることでいっそう楽しく

ピアニスト・北海道教育大学岩見沢校准教授
深井　尚子

今月から、新しいテーマで皆さまと紙面でお目にかかれますことうれしく思います。よろしくお願いいたします。

クラッシック音楽は、難しくてわからないといわれますが、美術も含む「芸術」と呼ばれるものは、一般的にその傾向があると思います。私は、絵画鑑賞の趣味があるのですが、何も知らずにただ見るだけですと、その作品の深い意味や意図がわかりません。特に古典といわれるジャンルは、美術にも音楽にも約束事があり、それを知ることで意味がわかったり、意図が感じられたりして「芸術」をよりいっそう楽しむことができます。だいぶ前になりますが、私は、「絵画の鑑賞法」という講座に通ったことがあり、そのおかげでヨーロッパ各地にある名画をより深く鑑賞することができたという経験があります。

さて、クラシック音楽も同じように、少しの知識があるとより深く音楽を楽しむことができます。今回のテーマは、クラシック音楽をよりいっそう楽しむための方法をお話していきたいと思います。

まず、クラシック音楽の歴史を簡単に説明します。音楽では、作曲法や表現法の特徴、時代背景、楽器の発達などの観点から、４つに時代を分けています。17世紀～18世紀の始めは、「バロック時代」、その後、19世紀初頭までが「古典派の時代」と呼ばれます。20世紀初頭まで「ロマン派の時代」が続き、現代に至るまでを「近代現代の時代」と分けています。その区分は、ヨーロッパの社会情勢や思想、科学技術の発達などにも深い関係があります。特に、古典派とロマン派の間には、自由、平等、博愛をスローガンとする「フランス革命」が勃発し、思想的な自由と身分の差別を無くす動きが生まれます。このことは、文学、音楽にも浸透し、古典派最後の、またロマン派最初の作曲家といわれるベートーヴェンの音楽に色濃く現れます。私が長く演奏と研究を続けているベートーヴェンは、中世と現代を分ける、大きな社会の変化の中で活躍した作曲家です。

ベートーヴェンまでの音楽、つまり題名がない音楽を「絶対音楽」といい、その後、文学や絵画からのインスピレーションを音楽にした「標題音楽」がロマン派以降、さかんに作られるようになります。「標題音楽」は、リストがたくさんの作品を残しています。「メフィストワルツ」、「ダンテを読んで」など、ヨーロッパ人の哲学的指針ともいえる「ファウスト」や「神曲」という文学からインスピレーションを得ていますので、それらの文学を知らなければ、作曲家の意図する音楽を充分受け取ることができません。それに対して、ベートーヴェンなどの「絶対音楽」は、どのようなことを知るといいのでしょうか。そこには、古典派に確立された「ソナタ形式」によって、厳格にかつ重厚な作品が生まれています。形式というと、堅苦しいと思われるかもしれませんが、冠婚葬祭に礼服を身につけ、そこから喜びや悲しみを表すことと、少し、似ているかもしれません。形式という、いくつかの規則の中で、音楽を作り出した作曲家が、ハイドン、モーツアルト、ベートーヴェンなどの作曲家でした。

次回から、具体的な曲を紹介しながら、クラシック音楽を身近に感じていただけるようお話していきたいと思います。

陽彩随筆

あの日の小咄（こばなし）

堀　利幸

六月のある土曜日、朝刊を開いて驚いた。そしてそのひと月ほど前に母の誕生祝で帯広に行った時のことを思い出したのである。

僕は五月のその日、車内読書用にと書棚から一冊を引き抜いた。「にっぽん小咄大全」である。何度も読んでいる本で、十三世紀から寛永年代までの小咄が九〇〇話ほど収まっている。

その中の一話。

『異見』

「若いから無理もないが、年寄った親たちに苦労させないようにしな。両親がそろっているのは大へんな幸せで、いくら金銀を積んでも、親は買われない」といえば、息子また、売ろうと言っても売れない」（飛談語）

この飛談語というのは十八世紀の小咄集のタイトルである。

何度も読んでいるのだが、笑ってしまう。しかも笑う小咄はいつも同じだ。筋書きが分かっているのに笑う。機転の利いた掛け合いが愉しいのだ。

この本は昭和四十三年に浜田義一郎訳編で初版されている。「あとがき」によると、「ダイヤルをひねれば、電波が笑いをのせて飛び込んでくる」というラジオ時代になったが、遠い昔の人々にとってその笑いは「手軽に得ることができなかった」。けれど「笑うかど に福きたる」と子や孫に語り継がれてきた。時には話術の巧みなお伽衆（おとぎしゅう）を招いて笑う。咄家（はなしか）を召し抱えていた貴族もいた。豊臣秀吉は曽呂利新左衛門を側近にして「当意即妙の機知や笑話を複雑な人間関係の潤滑油とした」というのである。

愚か者やあわて者が登場して「そんなアホな」と呆れ、「なるほど」とうなずかされて他愛なく笑う。江戸時代になって小咄が活字で残るようになり、、後年にはいくつもが落語の主題になっている。

車中での読書は、いつもその時だけの楽しみで、ほとんど忘れる。それが六月十八日土曜日の朝刊でびっくりしたのだ。「九十歳、いつまで生きているつもりか」との見出しである。ある政治家の発言だった。

そこであの日の小咄の一つ『異見』を思い起こしたのだが、笑えなかった。

その日の僕は、百一歳の母に会いに帯広へ行こうと早起きした朝だったのだ。

郷土文芸

美唄川柳社

わたくしの一時預り所を探す　林　勝義
マイナンバー冥途の路銀も管理され　本田　俊朗
労りの言葉心に灯がともる　多田　米子
正論を曲げず老いにもある若さ　桜井　キヌ
兄妹七人それぞれ違う母の愛　土屋　裕子
真っ直ぐに生きてる釘も叩かれる　星野　みどり

中空知の郷土文芸

花林短歌会滝川支部

三線と太鼓叩いて踊りゐる沖縄の海薫風吹きぬ　貝森久仁子
海岸をゆったりうで組む二人づれ若き日の君想ひ出しをり　大江ミヨ子
さやさやと薫風奏でる散歩道子供のやうに弾みて歩く　満開の桜の下を君と行くセピア色なる想ひ出のあり　大野　弘子
水無月は百花繚風薫りひかり満ち満ちわれ傘寿なる　教科書に秘めたる想い忍ばせて交換をした十五の春よ　石山　キエ
風薫る若葉のさやぎ耳に過ぐアクセル踏み丘を越えゆく　居酒屋に親しく杯を重ねしも胸の裡には触れず帰り来　貝森久仁子
風薫る季にさきがけ水仙の黄に降る雨のいまだ冷たし　桑原　和子
杳き日の淡き想ひをるる綴り便箋十枚燃やしてしまふ　桑原　和子
薫風に連翹の花の揺れてをりしがらみ捨てよと今朝の輝き　小島　邦子
いとしさもざんぶと捨てた濁り川昔つきたる嘘が気になる　小島　邦子
爽やかに薫る風吹く心良き物干竿のワイシャツ白し　土居美恵子
幼き日日曜学校に友となり同期の桜は恋の花咲く　土居美恵子
風神の袋より出ずる薫風に菜の花畑は金色のなみ　西澤菜句代
床にちる千切り人参あざやかに恋の破片の線香花火　中村　恭子
土手に生ふ芝生の緑あざやかに五月の風は鯉およがせて　真夜中に窓うつ風の激しかりとぎれとぎれはリズムとなりぬ　西澤菜句代
薫風に誘はるるまま遠廻りゆるむ土踏みふきのたう摘む　少しでも君の心にふれたくて同じ本読む遠き日のわれ　苫米地久枝

赤平俳句連盟

菜の花の染めたる空に高の笛　佐藤　雅雄
山鳥の艶やかなりし更衣　佐藤　雅雄
菜の花や軽トラゆるり畑へと　大川水野流
移し世に寺は流れず仏生会　大川水野流
蓬餅香りものせて供えけり　天谷　良華
狭き畑あれこれ迷い鍬始め　天谷　良華
生きていることに感謝の黄水仙　茂木　末子
ドライブは花吹雪舞ふ二人かな　茂木　末子
菜の花や広がるほどに空の藍　郁夫
風に耐へ枯れ木にわずか遅桜　瓜　郁夫
日溜まりの川辺に下りて芹菜摘む　真鍋　和子
菜の花や遊べとばかり蝶が舞い　真鍋　和子
菜の花で賑わう畑村おこし　神原美智江
赤子抱き乳の匂ひに春の風　神原美智江
菜の花や人を集めし村もあり　北村　播州
姉妹の力になれず桜咲く　北村　播州
菜の花や年を重ねること重し　松倉　絹江
田植え待つ代田は落花浮かべおり　松倉　絹江
菜の花のまつりの変へる町の色　阿部としお
増刊の分厚き新書春の昼　阿部としお
年月も花前線も駆け足で　大西　豊
日溜まりにときしらず咲き母偲ぶ　大西　豊
切株の木の香あたらし花菜風　鈴木　涼風
乳さくりあふ子羊や草若葉　鈴木　涼風
菜の花や海原と見る黄の波　木村　千代
薫風や湯殿掃除は時計さび　木村　千代
花は葉に一年生はとうに慣れ　吉田知寿子
夏めくやニッカーボッカーズ風孕み　吉田知寿子
動物の親子に出逢ふ子供の日　児玉　佳恵
新蕗を加へ一汁一菜に　児玉　佳恵

滝川氷原の会

逆風にひるむことなく渡り鳥　阿部　泰子
この味が人が人呼ぶ桜御膳　阿部　泰子
上向いて涙見せないつくしんぼ　上田　栗子
薫風に誘われ出逢い友多し　上田　栗子
春風に初めて立ちぬ子の自信　若木　英子
革靴のほこり薄ら昭和の日　若木　英子
桜（はな）の下会いたい人よ千の風　山上　達代
香り立つ千島桜や尾岱沼　山上　達代
空風の行きつく先の山もなし　菅原　信子
息吹きて山野さきがけ辛夷咲く　菅原　信子
春嵐熊本襲う震度七　高橋　紀代
白樺の幹の白さよ春の山　高橋　紀代
夜桜も若い二人の散歩道　飯塚　初子
ぱっと咲き散りゆく桜心打つ　飯塚　初子
憂き事も笑顔で話そう桜には　毎原　雅江
シベリヤへくの字になりて白鳥群　毎原　雅江
北国のさだめにも似て花疲れ　家納千世子
春風に背中押されて退院す　家納千世子

新十津川いろは短歌会

今年また野菜の苗を移植する伸びゆくさまを見るも楽しみも　田中　幸恵
菜の花が丘から畑へ一面に心の中まで黄色になりぬ　田中しづ子
早々と桜の季節過ぎ行きて後まかせてと芝ざくら咲く　原田寿満子
久々に田植え仕事を手伝いて想いめぐらす生業のころ　山崎　匡子
シャッターにガッツポーズのBBくん朝の散歩のコースに明るく　永島ふさえ
澄み切ったプールの水が誘い込む仲間とリハビリ明日をおもいて　小林　悦子
庭木々の緑日ましに濃くなりて今年も窓の眺め楽しく　中井　富好
腰かばい三粒三粒と豆を蒔くカッコウの鳴き音背にうけながら　野畑満智子
朝七時のやさしい音色ひるサイレン町の時報に動かされつつ　河原美智子
ゆくりなく遺影となりて我妹（わぎも）笑むうつつの我に呼びかけるごと　柳町　紀明
幼きに見た名は知れぬ花あまた遠い日おもう静寂の庭に　田岡トヨ子
短歌友の細君の急逝のちに知る辛き心中何と慰む　鈴井　礼子
こわごわとネコ譲渡会に顔を出す小さき体に悲しみ溢れて　佐竹　知子

暮らしと法律

◇73◆

事業承継

弁護士　村田雅彦

いつ・誰に・どのような形で事業を引き継いでもらうのか、ということは企業経営者の大きな悩みなのではないでしょうか。

そこで、今回は事業承継についてお話しをさせていただきます。

【誰に事業を引き継ぐのか】

中小企業では、創業者からその子どもへ、そしてさらにその子どもへという形で創業家が事業を引き継いでいくケースが多いといわれています。

他方で、子どもがいない、子どもがまったく別の仕事をしており会社を引き継ぐ意思を持っていないなどといった事情で、創業家内での承継ができない場合も増えてきています。

このような場合には、娘婿、子ども以外の親族（甥・姪・きょうだいなど）、共同で事業を興した共同経営者、親族以外の役員、他社から人材を招く、第三者への承継などといったことを検討する必要があります。

【事業承継の流れ】

事業承継は、①自社の現状分析②事業承継者の選定③事業承継方法の決定④事業承継計画の策定⑤事業承継計画の実行という流れをたどります。

【自社の現状分析】

事業承継の際には通常、事業承継者に株式を譲り渡すことが伴います。譲り渡すにあたっては、自社の株式がどの程度の価値を持つものなのか把握しておかなければなりません。また、株主構成（誰が何株保有しているのか）も確認する必要があります。

これとあわせて自社の負債の状況も把握しておく必要があります。後継者に事業を承継させて事業運営を継続できるのか検討する必要があるからです。

【事業承継者の選定】

先ほど述べたように、事業承継者の候補者は複数考えられます。その中で誰に事業を承継させるか決めるのがこの段階です。

事業承継についてはたくさんのお話しをしなければなりません。今回はここまでとさせていただき、次の機会に③の「事業承継方法」の決定のお話しをさせていただこうと思います。

弁護士法人
小寺・松田法律事務所
弁護士　小野田充宏
（岩見沢事務所）
TEL 0126-22-3380
弁護士　村田　雅彦
（滝川事務所）
TEL 0125-23-8455
＊初回相談料無料＊
平日：午前９時～午後６時
（水曜日のみ午後８時まで）
＜土曜日相談＞
（岩見沢）第２土曜日：午前９時～12時
（滝　川）第３土曜日：午後１時～４時
※土曜日相談の受付は前日まで

【見本】フレーム付・写真はカラー

記事・写真を「永遠」に！

4切サイズ（35.5×30.5cm）3,000円

●プレス空知に掲載された記事と写真を額にお入れします。
●ご注文には、掲載日と掲載面をお知らせ下さい。
●ご注文から仕上がりまで7日～10日ほどお時間をいただきます。
●仕上がり次第ご連絡を致しますので、受取に来ていただきます。
●記事量や写真のサイズによって、掲載されたレイアウトと異なる場合がございます。ご了承ください。

ご家庭、会社内用の掲示、お店のＰＲ用に。
または親戚や友人への「贈り物」にどうぞ。

プレス空知フォトサービス
プレス空知に掲載された写真をお分け致します。
受付時間／午前9:00～午後5:00(土曜正午まで)

【価格表】
■L　判　8.9cm×12.7cm…　200円
■キャビネ　13.0cm×18.0cm…　400円
■6ツ切り　20.3cm×25.4cm…1,700円
■4ツ切り　25.4cm×30.5cm…2,300円
［すべてカラー・税込価格］
※写真サイズの比率により、仕上がりが上記サイズと異なる場合があります

《ご本人様が被写体の場合、1枚目のみ100円引きさせて頂きます。》
※但し、キャビネサイズ以上のご注文に限ります

●ご注文には、掲載日と掲載面をお知らせ下さい。
●ご注文から仕上がりまで7～10日ほどお時間をいただきます。
●仕上がり次第ご連絡致しますので、受取に来ていただきます。
●掲載写真は紙面に合わせて加工しているため、実際の仕上がりと異なる場合がございます。
●著作権や肖像権の問題から提供できない写真もございます。
●他の印刷物等への転載はご遠慮下さい。

お問い合わせ お申し込みは… プレス空知 岩見沢市９条東１丁目 ☎(0126)22-3700